

平成21年秋号(電子化46号)

発行: 国立国会図書館総務部
(National Diet Library)
ISSN: 1344-8412

[最新号の目次](#)

[バックナンバー](#)

[支部図書館に関する記事一覧](#)



1. 女子栄養大学図書館の紹介

池内和恵

1. はじめに

女子栄養大学図書館は、埼玉県坂戸市の坂戸キャンパスにあり、東京都豊島区の駒込キャンパスにある短期大学部図書館と香川栄養専門学校図書室の3館で学校法人香川栄養学園の図書館を構成しています。

本学園は、昭和8年に医師である創設者香川昇三と綾が当時国民病であった脚気のほか、さまざまな病気の治療研究にあたっていました。栄養学により疾病を予防し人々の健康を守ることを決意し、現在の東京都立六義園近くの自宅に「家庭食養研究会」を創設し、発足しました。

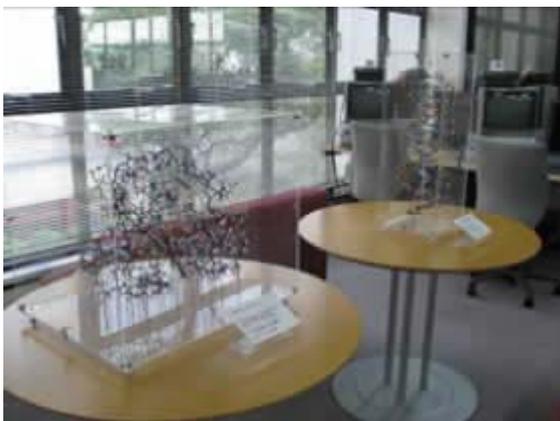
建学の精神は、「食により人間の健康の維持・改善を図る」ことにあり、本学図書館はその精神に基づき栄養学を中心に医学分野、食品学、衛生学、調理学、食文化や食育に関わる資料を収集し、研究者や学生による調査・研究、学習の場として活用されています。

収集資料につきましては、2008年度より本学創設者の研究の基である「脚気」や「ビタミン」に関する資料についても、収集することになりました。



2. 施設・概要

大学図書館は、坂戸キャンパスのほぼ中央に位置し、4階建の1階・中2階・2階部分に閲覧室と書架を配置しています。2階が図書館の入口となっており新着和洋雑誌室、閲覧室、グループ閲覧室、そして図書館資料を利用したレポート作成が可能な多目的閲覧室があります。このフロアーには、参考図書、授業用参考書、本学教員著書・卒業生著書等の資料があります。その他、新着雑誌、新着図書、学生選書、教員推薦図書コーナーを置き、脚気関連資料、ビタミン関連資料、レポート論文作成参考書のコーナーもこのフロアーに設置しています。また、所蔵資料・電子ジャーナル・データベース等の検索端末は、すべてのフロアーにありどの階からも資料の検索ができるようになっています。中2階書庫は、逐次刊行物資料のフロアーとして、和・洋雑誌バックナンバー、他機関刊行紀要、新聞縮刷版、本学学生博士・修士・卒業研究論文があります。1階には、専門分野ならびに人文・社会科学分野の図書があり、利用者は自由に手にとって図書を見ることができます。図書館入口前にはブラウジングルームがあり、日刊新聞や出版情報などをおき、ソファで利用者がくつろいだ時間を過ごせるようなスペースとなっています。ここでは、現在“韓国食文化の歴史”というテーマで本学所蔵資料の企画展示を行っています。このテーマに関する所蔵リストも作成し、館内にはコーナーを設置し、展示資料以外にも興味のある資料があれば利用できることを紹介しています。また、分子モデルをこのスペースにおき、学生の目にふれるようにしています。本学出版部刊行物の展示コーナーもあり、新刊をはじめ既刊の書籍も一覧できます。





- 施設設備： 1980(昭和55)年竣工。図書館・面積：約1,500m²。
閲覧席 209席。OPAC・検索性PC 17台。
- 蔵書数： 図書 約10万冊。雑誌 約2,000冊。視聴覚資料 約1,000点。
- 入館者数： 年間約120,000人。
- 貸出冊数： 年間約20,000冊。
- 奉仕対象： 約3,000人(うち学生約2,000人)。



- 開館時間：月曜日～金曜日 9:10～21:00 土曜日 9:10～17:00
- 閉館日：日曜日・祝祭日・年末年始・その他
- 図書館HP

<http://www.eiyo.ac.jp/library/>

<http://opac.eiyo.ac.jp/> [蔵書検索：LIFE]



3. 特長

(1)栄養と料理デジタルアーカイブス URL <http://eiyouoryori.jp/>

本学創設者の香川昇三と綾は、昭和8年に「家庭食養研究会」を創設し、栄養学の普及と実践を開始しています。研究会の会員に配布した講義録や献立は謄写版にして会員に配布されましたが、この講義録がそもそもの始まりで、その後会員も増え、雑誌の体裁で昭和10年6月に雑誌「栄養と料理」と名づけ創刊号となりました。研究会の目的は食生活改善の普及にあったため、雑誌「栄養と料理」は当初希望者には無料頒布もしましたが、予約者が殺到し次

号からは「貳拾銭」で販売することになりました。栄養学や料理法に関する一般向けの参考雑誌として、多くのかたがたに読み継がれ日々の生活の参考にされ、昭和20年に戦災による校舎焼失、1年間の休刊、昭和21年1・2月合併号復刊など戦争、戦後の混乱期にも刊行の趣旨は変わらず、今日まで刊行されてきました。図書館では、「栄養と料理」の特に戦前から昭和30年代までの紙質劣化に対する保管策ならびに汚破損等利用による資料劣化の対策を検討する必要性がありました。また「栄養と料理」の創刊から今日までの全体が栄養学史、食生活改善史、日本食物史といったさまざまな性格を有する文献であり、戦中・戦後の食文化史的遺産でもあることから、研究者はじめ広く社会に提供する方策を検討しておりました。その結果、創刊時から全文画像データとして全誌面をデジタル化し、インターネット公開することが最適との結論に達し、「栄養と料理デジタルアーカイブ構築事業」として取り組むことになりました。名称は、『栄養と料理デジタルアーカイブ』とし、創刊号(昭和10年)から第54巻(昭和末期)迄の52年間(昭和20年休刊)を対象とし、平成14年から19年までの6年間に10年前後ずつ順次インターネット公開をし、構築してまいりました。開発経費は、文部科学省の補助金による助成を充当し、データ構築を図りました。2008年度の訪問者数は190万人を超えております。なお、このデータベースは『デジタルアーカイブス白書2005』(※1)国内グッドWebサイト事例集[大学・研究機関]で紹介されました。



※1『デジタルアーカイブス白書2005』

デジタルアーカイブ推進協議会(トランスアート発売)2005年

(2)女子栄養大学オープンコースウェア URL <http://ocw.eiyo.ac.jp/>

2007年度より大学の授業やその資料をインターネットに公開するWebサイトを開設しました。このサイトでは、講義概要や配布資料に加え、授業で使用したスライドやウェブサイトなどを公開しています。

現在7講義(※2)の公開ではありますが、2008年度の訪問者数は60万人を超え、今後も最新の授業内容や資料を随時公開していく予定です。



ぶ楽しさ、選んだ本が図書館の蔵書になる喜び、また本を人に薦める快さなど感じていると思います。本を読みたい学生が大勢いて、その学生たちの読みたい気持ちをこの活動により後押しして、図書館の本が活用されることを願っています。

(5)提携図書館

図書館は、財団法人味の素の文化ライブラリー(東京都港区高輪)と2004年に互いに食に関する図書資料を蔵書として備えていることから相互協力の提携を、また独立行政法人国立女性教育会館女性教育情報センター(埼玉県比企郡嵐山町)とは2006年にそれぞれの館種の特色を生かし、資料提供サービス等の図書館サービスの連携を申し合わせています。

(6)市民への図書館利用

大学図書館は、坂戸キャンパス周辺地域の坂戸市、鶴ヶ島市在住の市民を対象に、短期大学部図書館は、駒込キャンパス周辺の豊島区、北区、文京区在住の区民を対象に、調査・研究を目的とする希望者に学習の場を提供しています。図書館の利用は会員制で初会費・年間2,000円(更新会費1,000円)としています。なお、原則として学生・教職員の学習・教育・研究活動に支障のない範囲としています。

4. おわりに

図書館には学園創立者香川昇三・綾記念展示室が併設され、学生はもちろん教職員さらには学外の方にも学園の創立の経緯、創立者の建学の精神を肌で触れ、目で見て直接学ぶことができるようになっていきます。また、本学で長く基本調理を中心に学生・生徒の指導にあたられ、多くの人材を育てられた故上田フサ先生の“学生が目で見、実際に触って食具に親しめる場所を”というご遺志に添った「食具の小さなミュージアム」を目指し、2003年より大学内に食具等の展示コーナーを設けています。これら遺品や資料、食器・食具等の整理、展示、企画について、図書館は事務的な部分を担っています。

データベースや目録は、作成してそれで終わりということではなく、時間の流れにより蓄積されるものを、次にどのように構築していくかということを考えていく必要があります。

それらを現状の図書館業務や予算等を考え合わせどのように実行していくかが次への課題となります。

前述「図書館と県民のつどい埼玉」の今年度の展示会にむけて、本学は本学所蔵“「食育」に関する資料”の展示を予定しています。「食育」は、2005年に食育基本法が制定され、「食」の重要性が認識され国を挙げてその取り組みが推進されています。改めて、本学園建学の精神は「食により人間の健康の維持・改善を図る」ことにあり、“食は生命なり”という創設者香川綾の言葉が今までも、今もそしてこれからも生きていくことを強く感じています。図書館として、特色ある所蔵資料のさらなる収集、利用、展示、情報発信等に務めなければならないと思っています。

(女子栄養大学図書館)

[次の記事へ](#)

[このページの先頭へ](#)

平成21年秋号(電子化46号)

発行: 国立国会図書館総務部
(National Diet Library)
ISSN: 1344-8412

[最新号の目次](#)

[バックナンバー](#)

[支部図書館に関する記事一覧](#)



2. 「支部海上保安庁図書館の見学と交流会」に参加して

武市 佳子

1 はじめに

去る7月6日(月), 海上保安庁の図書室において, 見学会及び意見交換会が行われた。今回, 他の支部図書館を見学するのは初めてであったため, 非常に興味深く拝見した。以下, その内容と感想を述べさせていただきたい。

2 図書室見学会

海上保安庁図書室は, 昭和27年に中央合同庁舎1号館に設置されたことに始まる。現在の3号館に移転したのは, 同48年であり, 他に海洋情報部分館が築地に設置されている。

今回見学したのは, 3号館の図書室のみであったが, まず, 図書室に入って感じたのは, 手作り感のある, 温かく居心地のよい雰囲気だった。98.5平米と, 限られたスペースの中に, 約3万冊の蔵書が, A~Fの書架に, 業務遂行の内容に沿って, 並べられている。一般の図書館でよく見られる回転式の書架も取り入れられており, 利用しやすいと感じた。書架の奥には, 窓に面して, コーヒーショップなどでよく見られる長机が設置されており, 眼下には, 皇居や丸の内方面を見渡せる光景が広がっている。絶好の環境の中で, 落ち着いて図書を読めそうである。業務に関連した図書はもちろんのこと, それ以外にも小説などの読み物や無料で配布されている情報誌なども置かれており, 少しでも来館者に寛いでもらおうという工夫が感じられた。小規模図書館であるからこそその, 肌理の細かい気配りが随所に見られた。入館者が倍増していることも納得である。



(回転式書架)



(窓際の閲覧スペース)

ただ、約3万冊の蔵書のうち、現在、1万冊しかデータ登録されておらず、検索がその範囲内に限られるため、早期に全蔵書をデータ登録することが今後の目標ということであった。

3 意見交換会

見学会終了後、3つのテーブルに分かれ、各図書館の問題点等を話し合った。以下は、その際のテーマの一部である。

- 図書管理について

文科省図書館では、ICタグを埋め込んだ図書システムを構築し、ICゲートを設けているという理想的なシステムの紹介がされた。それと同時に、(1)貸出を細かくチェックし、督促を確実にする、(2)蔵書点検をこまめに実施する等の日々の点検が重要であるとの共通の認識を持つことができた。

- 複写サービスについて

一般利用者に対しての複写サービスは、(1)業者がコピー機を設置し、司書の監視下で使用させる、(2)館外のコピー機を利用してもらう、(3)コピーの依頼がほとんどないなど、各館様々であった。特に、館外に持ち出す場合は、紛失等に対するリスク管理の徹底が不可欠であり、常にその認識をもって対応するべきであると感じた。

設備等は各図書館ごとに異なっているが、概ね同様の問題点や悩みを抱えていることが分かった。定期的に、このような支部図書館相互の意見交換の場を持つことは、今後の図書館運営の参考のためにも貴重な機会であると感じた。

4 感想

今回、海上保安庁の図書室の見学、そして改良への取り組みを拝聴させていただき、改めて利用者が使いやすい図書館を作っていくべきであると感じた。現在、私たちは、図書のデジタル化・検索ツールの多様化により、必要な図書を短時間で的確に手にすることができる。図書館においても、世の中の流れに沿って、早急に変革を迫られており、本年7月の国立国会図書館法の一部改正をはじめ、今後更に、デジタル化への動きが加速することになる。

しかし、自明のことではあるが、図書の利用者を常に念頭に置き、有効な図書の利用方法について模索することが図書館運営の原点である。

当法務図書館では、今年度から選書及び図書請求業務を除く大部分の図書館業務をアウトソーシングしている。現在までのところ、順調に進んでおり、専門的見地からの様々な助言は大変貴重であると感じている。日々受託業者と意見を交換し、図書館の利用促進と利便性の向上を目指し、「官」と「民」が協力し、試行錯誤しながら、少しずつではあるが、改良に取り組んでいる。また、来年度からは図書・雑誌検索の新システムへの移行も予定している。

図書館運営の原点を再認識するとともに、支部図書館職員として、職員の利用目的に応じた図書館運営を第一とし、職務の円滑な遂行をバックアップするために、利便性の高い図書館サービスの構築について、常に検討していくことの重要性を改めて感じた今回の見学会であった。

海上保安庁図書館の蔵書について

(1) 特色

「海上保安庁図書館における資料収集方針」に基づき、海上保安関係分野については、基本的なものから専門的な資料まで、それ以外の分野については、基本的な資料の収集管理を行っており、現在、和書約30,400冊、洋書420冊、逐次刊行物130冊、電子出版物(CD-ROM等) 210点を所蔵している。

1. 海上保安関係分野の蔵書例

- 岩尾克治『闘う！海上保安庁』（平成20年 光人社）
- 海上保安庁 編集『海上保安庁30年史』（昭和54年 海上保安協会）
- 海上保安庁 編集『海上保安庁50年史』（平成10年 海上保安庁）
- 北岡洋志『海上保安庁特殊救難隊』（平成9年 海文堂出版）
- 小峯隆生『海上保安庁特殊部隊 SST』（平成17年 並木書房）
- 杉浦邦朗『海図をつくる』（平成8年 成山堂書店）
- 土井全二郎『現代の海賊—ビジネス化する無法社会—』（平成16年 交通研究協会）
- 富賀見栄一『海上保安庁進化論』（平成21年 シーズ・プランニング）
- 長岡日出雄『日本の灯台』（平成5年 成山堂書店）
- 邊見正和『海上保安庁 巡視船の活動』（平成5年 成山堂書店）
- 松嶋美由紀『海上保安庁 海上保安官になる本』（平成13年 三修社）
- 村田良平『海が日本の将来を決める』（平成18年 成山堂書店）
- 山田吉彦『海のテロリズム』（平成8年 PHP研究所）
- 山田吉彦『日本の国境』（平成18年 新潮社）
- 山本草二 編集代表『海上保安法制』（平成21年 三省堂）

(支部法務図書館)

[前の記事へ](#)

[次の記事へ](#)

[このページの先頭へ](#)

平成21年秋号(電子化46号)

発行: 国立国会図書館総務部
(National Diet Library)
ISSN: 1344-8412

[最新号の目次](#)

[バックナンバー](#)

[支部図書館に関する記事一覧](#)



3. 平成21年度専門図書館協議会全国研究集会の報告

岡見 佐千夫

1 はじめに

平成21年6月15日、16日に東京丸の内の東京商工会議所で、平成21年度専門図書館協議会総会と全国研究集会が開催され、役員含め全国から196名が参加しました。今年度の総合テーマは「チェンジ!! 新たな専門図書館をめざして」です。専門図書館に対する社会的要請は高いにもかかわらず、この一年の世界的経済環境の悪化などの影響もあり、その運営には厳しさが加わっています。そこで、専門図書館の使命・責任を再考し、活動内容、情報提供、広報、人材育成などの工夫についてのヒントを探すための集会になりました。

まず、開会式に引き続き、作家の西木正明先生が、「作家の取材活動とアーカイブス」と題して基調講演を行いました。歴史ドキュメンタリーを生み出すためには、正確な情報を発掘する必要があります。先生はイタリアとロシアへ取材旅行に出かけ、歴史の生き証人への聞き取りや、アーカイブされた資料を探し求めたそうです。このようなニーズがあるために、図書館職員としては、正確な情報をすぐに提供できるよう、情報の吟味と時事の勉強を怠らないようにとのアドバイスを受けました。

支部気象庁図書館は気象庁の前身である東京気象台が明治8年(1875年)に創設されてから現在に至るまでに収集した11万冊以上の図書資料をアーカイブしています。これらの蔵書を大切に後世に引き継ぐとともに、必要に応じてすぐに利用できるよう、アーカイブの大切さとレファレンス能力向上の必要性を改めて感じました。

2日目は6つの分科会が企画され、私は第1分科会「工夫と挑戦の専門図書館」と第6分科会「データベースの創造」に参加しました。

2 第1分科会の報告

第1分科会では、まず、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構の白鳥智裕氏の講演がありました。機構の図書館は、近年のレアメタル、石油などの価格の大きな変動を反映して利用

者が倍増しているそうです。また、利用者の事故、障害発生を予防し、情報の利用価値を高めるための「安全管理マニュアル」を定め運営管理しているそうです。例えば、パトロールの実施、入り口に避難経路図を表示、什器等重量物の床固定、移動書架に人が挟まれないための注意表示、じゅうたんの色違いにより段差を注意表示、事故発生時の緊急連絡体制の構築などです。

http://www.jogmec.go.jp/mric_web/library_index/index.html

次に、(学校法人)後藤学園図書室の壬生理恵子氏の講演がありました。壬生氏は図書室の開設・運営を一人でこなされているそうで、そのご苦労が感じられました。現在では、家政学、生活科学、医学、薬学を中心とした図書資料が充実しているそうです。そして、利用しやすい展示の工夫や、新入生へのオリエンテーションの実施、詳細な選書リストの作成、注目される新聞記事の室内掲示、学内LANの掲示板に図書館ニュースの掲示など、さまざまな活動が紹介されました。

<http://www.goto.ac.jp/index.html>

2つの図書館の試みには、利用者を第一に考えて、居心地が良く安全で清潔な図書館を提供する姿勢が現れていました。紹介されたこれらの事例を参考にして支部気象庁図書館の運営に当たっていきたいと思います。

3 第6分科会の報告

第6分科会では、まず、(独)国立女性教育会館 女性教育情報センターの江川和子氏の講演がありました。1991年から開始された女性情報ポータルサイトである「Winet」のデータベースの作り方・使い方の紹介がありました。データベースの基本としては、事前のニーズ把握、必要な機能の検討、付加価値の重要性、既存の資源の有効利用などを考慮した上で、「自分のほしいものを作る」、「作ってみて、育てていく」、「メンテナンスを怠らない」ことが大切だと話されました。「Winet」は以下のWebページで公開されており、利用しやすい情報提供の工夫がたくさん施されています。

<http://www.nwec.jp/jp/center/>

「Winet」 → <http://winet.nwec.jp/navi/>

次に、国立音楽大附属図書館の松浦淳子氏と南部好江氏の講演がありました。この図書館では、童謡、唱歌、わらべうた、戦時歌謡、国民歌謡など歌の全貌を明らかにすべく、データベース化を行っています。掲載されている歌は約13,000曲に及び、現在も追加・修正が続いているそうです。このデータベースは以下のWebページで公開されており、その内の童謡・唱歌索引は、OPACと連動させて目的の楽譜、掲載図書・雑誌、録音資料へと簡単に導いてくれます。

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/>

童謡・唱歌索引 → <http://www.lib.kunitachi.ac.jp/collection/shoka/top.asp>

支部気象庁図書館は、気象庁業務に関係した気象学、海洋学、地球環境学、地震学、火山学をはじめ、物理学、数学、農学、天文学など多岐にわたる図書資料を所蔵しています。図書資料にはこれらの理学系の図書の他に論文集が多く含まれます。閲覧室では、一般的な「図書検索」が可能ですが、他に個々の論文の「文献検索」のデータベースも利用できます。「文献検索」は論文名や著者名の一部を入力すれば検索できるキーワード検索が可能です。さらに、文献発行機関のWebページへのリンクがあり、関連情報を捉えやすいように工夫しています。第6分科会の講演は、このデータベースの維持、管理にたいへん参考になりました。

4 おわりに

私は、先輩が築いた歴史ある図書館業務に携わって2年目になります。担当する仕事は、資料の収集と交換、選書、図書・雑誌の購入、オンラインジャーナルの維持・管理、図書館利用率の向上策の検討などで、やるべき課題が山積しています。昨今の時代の流れとともに図書館の仕事も変化が激しくなっていると感じています。今回の全国研究集会で得られた成果を生かし、利用者を第一に考え、いつも求められる情報を早く正確に提供できる図書館の一翼を担えるよう、日々、問題を発見し、解決の努力をしていきたと思います。

ライブラリアンは、「チェンジ！！ 新たな専門図書館をめざして」に答えて、“Yes, we can！！”と叫びましょう。最後に、講師、企画運営スタッフの方々そして見学でお世話になった東京商工会議所図書館の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

(支部気象庁図書館)

[前の記事へ](#)

[次の記事へ](#)

[このページの先頭へ](#)

平成21年秋号(電子化46号)

発行: 国立国会図書館総務部
(National Diet Library)
ISSN: 1344-8412

[最新号の目次](#)

[バックナンバー](#)

[支部図書館に関する記事一覧](#)



4. 平成21年度行政・司法各部門支部図書館職員への感謝状贈呈

平成21年9月4日(金)支部図書館職員4名に対して、長尾真国立国会図書館長より感謝状が贈られました。感謝状は昭和57年国立国会図書館内規第5号により、支部図書館職員のうち10年以上支部図書館に勤務し、支部図書館の向上発展に寄与した人に贈られています。

贈呈式後、総務部長、総務部司書監ほか支部図書館・協力課職員と懇談しました。

感謝状を贈られた方々

支部農林水産省図書館農林水産政策研究所分館

高坂 豊

新井 光秋

支部農林水産省図書館農林水産技術会議事務局筑波事務所分館

鴻巣 勝美

支部最高裁判所図書館

浮ヶ谷 榮二



(前列左から、高坂氏、新井氏、長尾館長、吉永副館長、鴻巣氏、浮ヶ谷氏)

(国立国会図書館総務部支部図書館・協力課)

[前の記事へ](#)

[次の記事へ](#)

[このページの先頭へ](#)

(クリックすると拡大します。)

[前の記事へ](#)

[次の記事へ](#)

[このページの先頭へ](#)

平成21年秋号(電子化46号)

発行: 国立国会図書館総務部
(National Diet Library)
ISSN: 1344-8412

[最新号の目次](#)

[バックナンバー](#)

[支部図書館に関する記事一覧](#)



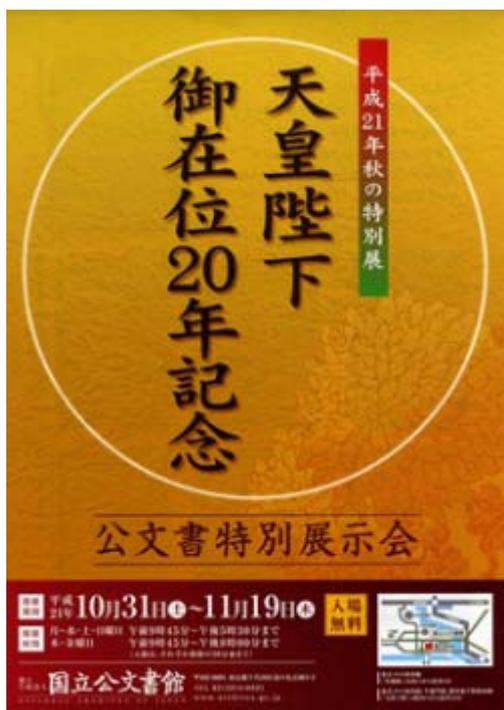
6. 国立公文書館特別展「天皇陛下御在位20年記念公文書特別展示会」の御案内

国立公文書館では、毎年、春・秋の2回、特別展を開催しています。
平成21年秋は、「天皇陛下御在位20年記念公文書特別展示会」開催します。
是非多くの皆様に御覧いただきたく御案内いたします。

期間 平成21年10月31日(土)～11月19日(木) 土・日曜日も開催

時間 午前9時45分から午後5時30分まで
ただし、木・金曜日は午後8時まで
(入場は無料)

会場 独立行政法人国立公文書館 住所 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園3-2 TEL:03-3214-0621(代表) URL: http://www.archives.go.jp	(東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口より徒歩5分 東京メトロ東西線・半蔵門線、都営地下鉄新宿線「九段下駅」4番出口より徒歩12分)
---	--



(クリックすると拡大します。)

[前の記事へ](#)

[次の記事へ](#)

[このページの先頭へ](#)

平成21年秋号(電子化46号)

発行: 国立国会図書館総務部
(National Diet Library)
ISSN: 1344-8412

[最新号の目次](#)

[バックナンバー](#)

[支部図書館に関する記事一覧](#)



7. 日誌(平成21年9月～平成21年10月)

平成21年	9月8日	行政・司法各部門支部図書館職員特別研修「電子情報環境下における図書館」 11館 17名
	9月11日	平成21年度行政・司法各部門支部図書館職員司書業務研修「オリエンテーション」「目録法入門」
	9月15日	平成21年度行政・司法各部門支部図書館職員司書業務研修「分類法入門」
	9月16日	支部図書館長異動 環境省図書館長 紀村 英俊 (前 榑林 茂夫)
	9月29日	平成21年度行政・司法各部門支部図書館職員司書業務研修「図書館資料の保存」
	10月1日	支部図書館長異動 環境省図書館長 佐藤 邦子 (前 紀村 英俊)
	10月2日	行政・司法各部門支部図書館職員特別研修「図書館をめぐる著作権制度—現状と課題」 14館 20名
	10月7日	平成21年度行政・司法各部門支部図書館職員司書業務研修「レファレンスサービス—人文分野」「レファレンスサービス—経済社会分野」
	10月9日	平成21年度行政・司法各部門支部図書館職員司書業務研修「レファレンスサービス—法令議会官庁情報」
		平成21年度第2回中央館・支部図書館ネットワーク検討会

10月14日	平成21年度行政・司法各部門支部図書館職員司書業務研修「レファレンスサービス―科学技術情報」「レファレンスサービス―新聞情報」
10月23日	平成21年度行政・司法各部門支部図書館職員司書業務研修「報告・交流会」
10月30日	平成21年(第95回)全国図書館大会(東京)全体会会場: 明治大学アカデミーホール)

* 平成21年度行政・司法各部門支部図書館職員司書業務研修 受講者 12館20名

[前の記事へ](#)

[次の記事へ](#)

[このページの先頭へ](#)

びぶろす-Biblos

平成21年秋号(電子化46号)

発行:国立国会図書館総務部
(National Diet Library)
ISSN:1344-8412

[最新号の目次](#)

[バックナンバー](#)

[支部図書館に関する記事一覧](#)



8. 国立国会図書館刊行物紹介

当館HPに公開されている刊行物の中から、平成21年9月～10月の間に公開された記事の一部を紹介します。

● 『国立国会図書館月報』

国立国会図書館の蔵書や各種サービスについて総合的に紹介する広報誌です。2004年4月以降はPDF形式でご覧いただけます。

- 「公共図書館が国立国会図書館に期待すること」p.18-21 ([582号\(2009年9月\)](#))
- 「ドイツ政府機関図書館の連携協力」p.28-29 ([582号\(2009年9月\)](#))
- …他

[平成21年刊行分一覧](#)

● 『調査と情報』-ISSUE BRIEF-

国政上の重要課題について、その背景・経緯・問題点等を簡潔にとりまとめた雑誌です。

- No.651 「[死刑をめぐる論点—死刑存置論と死刑廃止論—](#)」(2009.10.22)
- No.650 「[諸外国の国民投票法制及び実施例](#)」(2009.10.13)
- …他

[平成21年刊行分一覧](#)

● 『外国の立法』

諸外国の立法動向を簡潔にまとめており、季刊版と月刊版があります。

- 「[【アメリカ】立法情報2010年度歳出予算法案の審議動向](#)」(No.241-1(2009年10月:月刊版)立法情報)

- [「【EU】エネルギー市場自由化：電力・ガス事業規制強化」](#) (No.240-2(2009年8月：月刊版)立法情報)
・・・他

また、月刊版では、各国の立法情報をコンパクトにまとめた短信も掲載しています。

- 2009年10月：月刊版 [短信](#)
- 2009年8月：月刊版 [短信](#)

[平成21年刊行分一覧](#)

● 『カレントアウェアネス』

図書館及び図書館情報学における、国内外の近年の動向及びトピックスを解説・レビューする情報誌です。

- [「動向レビュー：デジタル情報資源の管理・保存にいくらかかるのか？—ライフサイクルコストを算出する試み“LIFE”」](#) 村上 浩介 (No.301 (CA1691-CA1696) 2009.09.20)
・・・他

[2009年刊行分一覧](#)

また、『カレントアウェアネス-E』では図書館及び図書館情報学に関する最新ニュースを月2回配信しています。

- [「ジャンヌネー氏講演「インターネットと文化：チャンスか危機か」](#) (No.159 (E979-E984) 2009.10.14)
- [「世界図書館情報会議\(WLIC\)：第75回IFLA年次大会〈報告〉」](#) (No.158 (E973-E978) 2009.09.16)
・・・他

[2009年配信](#)

[前の記事へ](#)

[このページの先頭へ](#)